

小松島市営グラウンド遺跡(第1期)発掘調査について

市教育委員会では、令和2年2月から4月まで、日峯大神子広域公園（脇谷地区）整備事業により影響を受ける箇所の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。当初は現地説明会等も予定していましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったことから、広報誌面での報告とさせていただきます。発掘調査期間中は近隣の方々にはご迷惑をおかけしました。発掘調査へのご理解とご協力ありがとうございました。

市営グラウンド遺跡は昭和27年の開工工事の際に土器が出土するなど、古くから知られた遺跡でしたが、これまで学術的な調査は行われていませんでした。一部で北側の日峰山地の尾根を削平して作られており、今回の調査では尾根の西側の砂礫層や現・脇谷住宅方向からの谷筋と考えられる箇所などから、約4万点の遺物（縄文時代晩期から近世）が出土しました。

発掘調査風景

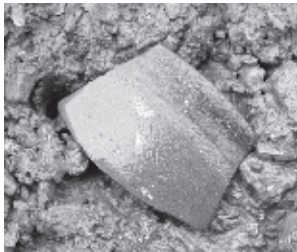


小松島市に残る『一分一間図』に記載のある近世から近代の人工溝。一部で岩盤をくりぬいています。

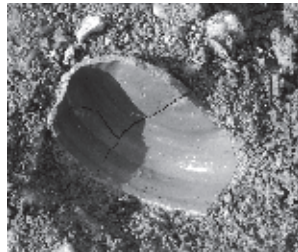
尾根西側の砂礫層
弥生時代終末から古墳時代初頭の土器片を中心に多くの遺物が出土しました。

脇谷住宅方向から谷筋に位置する調査区。平安時代の土器片を中心に多くの遺物が出土しました。

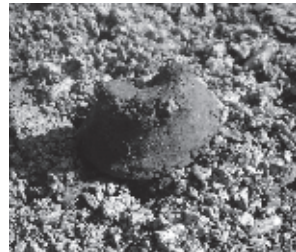
約2mの自然木を杭で固定した土止め（時期不明）



縁釉陶器（平安時代）
鉛を原料とした釉薬をかけた陶器で出土品は現在の滋賀県付近で作られたものと思われる。



須恵器杯（古墳時代）
出土品は5世紀後半ごろのもので、周辺に古墳が存在した可能性も考えられます。



製塩土器（古墳時代）
お塩を作るための土器で、古墳時代初頭から平安時代までの各時代のものが出土しています。



凸帯文土器（縄文時代晩期）
小松島市域では新居見遺跡に次いで2遺跡目の出土となります。



土師器壺（古墳時代初頭）
弥生時代終末から古墳時代初頭の土器の中には鮎喰川流域や讃岐など、他地域からの搬入品も含まれています。



棒状有孔土錘・管状土錘・有溝土錘（古代・中世か）
海辺の遺跡のため漁具であるオモリが多く出土しています。



石錘（古墳時代以前か）
円平な石に網などがかかるように打ち欠いている石製のオモリ

小松島市においても、古くから人間の営みが遺跡により確認されており、疫病や自然災害等を乗り越えて現在があります。現状に負けずに歴史を紡いでいきましょう!

【お問い合わせ先】 市教育委員会生涯学習課 ☎ 32・2700 / FAX 33・1230
Mail: shougai@city.komatsushima.i-tokushima.jp